

【ゴルカ(ネパール中部)金子淳、カトマンズ平野光芳】  
「テントの中が膝上まで浸水した」。ネパール大地震の震源に近い中部ゴルカ地区では3日、前夜に激しい嵐に見舞われたことから、今後の厳しい避難生活を心配する住民の声が聞かれた。ネパールは間もなくモンスーン(雨期)を迎える。地滑りなどの2次災害や衛生環境の悪化が懸念されており、復興支援は待ったなしの状況だ。

## ネパール大地震

首都カトマンズから車で約5時間。ゴルカ地区の山村パストラヌで、がれきから拾い集めた材木や竹で掘った小屋を作る人たちに会った。「テントではずぶぬれになるので小屋を作っているんだ」。頭にトタン板を載せて運んでいたディーク・サイさん(37)が言った。

「雨は降り続いた。前夜の嵐でテントの中は膝まで浸水し、わずかな家財道具はぬれてしまった。サイさんは「雨が降ったらテントにはいられない。いつまでこんな生活が続くのか」と力なくつぶやいた。ゴルカ地区は山あい集落が点在し、狭い山道が続く。4月25日の地震発生時は至る所で崖崩れが起きた。雨が降れば交通は寸断され、地滑りなどが起こる危険性もある。

ネパールでは5月から雨量が増え、6〜8

# 被災者 焦る 雨期 迫る

月のモンスーンには、多い月で800に近い

雨が降る。カトマンズで最大規模のトウンデイクル避難所には現在、約2000人が暮らすが、支援物資の頑丈なテントはまだ全員に行き渡っていない。

## 死者7350人に

死者は3日、72550人に達した。けが人は1万4000人以上。死者は周辺国も含めると約7350人に上っている。AP通信によると、人気トレッキングルートがある中部ラズワ地区のランタン谷では同日、外国人6人を含む51人の遺体が見つかった。

一方、支援物資の窓口であるカトマンズの空港が、離着陸の増加で滑走路が劣化し、大型輸送機の受け入れ制限を始めた。

ニースサイト 写真特集



地震で倒壊したがれきの中から廃材を探し出し、雨期を前に急ピッチで家を作る被災者(ネパール・ゴルカ地区のパストラヌ村で3日、望月晃一撮影)

## ネパール大地震 救援金受け付け

毎日新聞社と毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団は、ネパールを襲った大地震の被災者救援金を受け付けます。通信欄に「ネパール地震」と明記し、郵便振替か現金書留でお送りください。送料はご負担をお願いします。勝手ながら物資はお受けできません。お名前、金額などを地域面に掲載しますので、匿名を希望する方は「匿名希望」と明記してください。

〒530-8251 大阪市北区梅田3の4の5、毎日新聞 大阪社会事業団「ネパール地震」係 (郵便振替00970・9・12891)